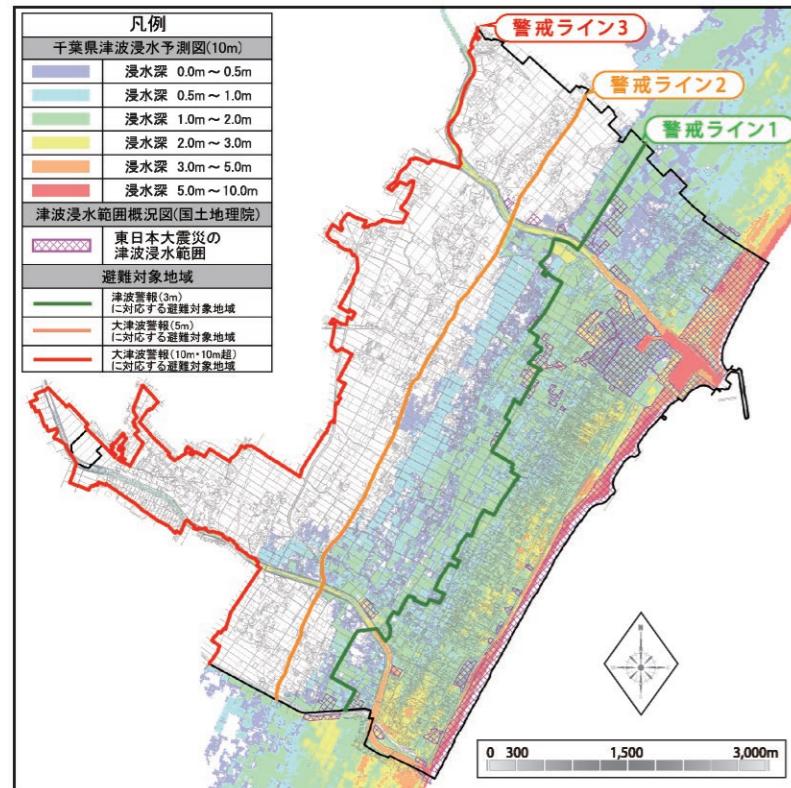


津波に備える

千葉県の津波浸水予測図（大津波警報10m）では、沿岸に到達した津波は、海岸から2km以上の内陸まで到達し、作田川及び真龜川を遡上した津波は、町域外まで到達することが想定されています。



- 津波浸水予想地域と避難対象地域
町では、千葉県津波浸水予測図に示された、大津波警報（10m）の津波浸水予想及び国土地理院の調査による東日本大震災の津波浸水範囲概況図を基に、気象庁が発表する津波警報等の発表基準に応じ避難対象地域を設定しています。

●避難対象地域

津波警報等	避難対象地域
津波注意報（1m）	（状況により設定）
津波警報（3m）	沿岸16自治区（警戒ライン1）
大津波警報（5m）	県道飯岡片貝線、一宮片貝線（準県）より海側（警戒ライン2）
大津波警報（10m, 10m超）	町全域（警戒ライン3）

津波避難 基本

とにかく逃げる

「素早い避難は、最も有効で重要な津波対策である」

- ⇒想定を超える可能性を考えて、とにかく逃げる
- ⇒揺れが収まったら、すぐ行動
- ⇒津波警報等発表時、揺れを感じなくても避難
- ⇒身を守るために最善をつくす
- ⇒逃げることを躊躇せず、率先避難者に

津波避難 原則

より安全な
場所に

「ただちに海岸や河川から離れ、安全な場所に避難する」

- ⇒海岸や河川から遠く離れた高い場所に避難
- ⇒ここなら安心と思わず、より安全な場所を目指して避難
- ⇒津波警報・注意報が解除されるまで油断しない

●津波はとても速い

津波は、深いところではジェット機並みの時速800km、海岸近くでもオリンピックの短距離選手並みの時速36kmで押し寄せる。

●引き波からとは限らない

地震の起り方や、震源からの位置関係によっては、潮が引きずに海岸に押し寄せる。

●津波は繰り返し襲ってくる

津波は、2波、3波と何度も繰り返し襲ってくる。必ずしも第1波が最大ではない。

津波からの避難

津波警報・注意報の種類

種類	津波注意報	津波警報	大津波警報（特別警報）		
津波の高さ	数値での発表 (津波の高さ予想)	1m (0.2~1m)	3m (1~3m)	5m (3~5m)	10m (5~10m)
	巨大地震の場合の発表	—	高い	巨大	
取るべき行動	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れる。 町が発令する避難勧告・避難指示	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに海岸や河川から遠く離れた高い場所に避難する。津波は繰り返し襲ってくるため、警報が解除されるまで安全な場所から離れない。ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難する。 状況により避難勧告を発令	津波の高さに対応した警戒ラインに避難指示を発令		

津波からの避難方法

災害時の避難方法は、『徒歩』が原則とされていますが、九十九里町の場合は、

町内に高台がなく平坦な地形であり、避難対象地域の外までに相当な距離がある

ことから、『徒歩による避難』を基本としますが、津波到達予想時間までに安全な地域まで避難できないと判断したときや、身体、体力的に困難な場合は、『自動車を利用した避難』についても、可能としています。

なお、津波から避難する場合、避難対象地域を越え、海岸や河川から遠く離れた高い場所まで迅速に避難することを原則としますが、津波到達予想時間までに、避難が間に合わない緊急の場合は、最寄りの津波避難ビル、津波避難タワー等の津波避難施設や、頑丈な建物の上階に緊急避難してください。

自動車を利用して避難するにあたっての注意事項

●直線的避難の実施・直進または左折の基本

- ⇒海岸から迅速に遠ざかるため、海岸線から遠く離れた高い場所に直線的に避難
- ⇒交通渋滞、交通事故等を起こさないため、交差点はできるだけ直進または左折を基本として通行

●交通マナーの遵守と安全運転

- ⇒徒歩避難する方と自動車避難する方が混在するため、交通マナーを守り、慎重に安全運転

●信号機の滅灯・道路上の障害物等

- ⇒信号機が滅灯している交差点では、周囲の状況を確認し、慎重に通行
- ⇒道路上への障害物の散乱や、道路被害の発生を考慮し、注意深く運転

●複数の避難経路の事前確認

- ⇒通行止め等を考慮し、迂回ルートや複数の避難経路を事前に確認

●乗り合わせによる車両台数抑制

- ⇒避難する自動車を減らすため、できるだけ乗り合わせによる避難

●徒歩避難への切り替え

- ⇒渋滞等でも、津波が背後に迫っている場合は、徒歩に切り替え、安全な場所に避難
- ⇒車両を置いて避難する場合は、道路外の緊急車両や他の避難者の妨げとならない場所に移動
- ⇒エンジンを止め、キーはつけたまま、窓を閉め、ドアはロックしない